



東援だより

vol.
37
2022.02

理念

私達は、高い志をもち、時代の要請に基づき先駆的に社会福祉の充実を図るため、利他の精神をもって活力ある経営を行い、社会福祉法人としての責務を果たし、社会に貢献してまいります。

特集

旅行体験 その1 その2

真剣なまなざしで赤べこに色を塗る利用者さん(三園福祉園旅行体験より)

もくじ

理事長挨拶	1	障がい者清掃事業の取り組みについて	6
東援ニュース	2	地域交流	7
委員会活動報告 人材育成委員会	3	支援マテリアル紹介	8
特集：旅行体験	4・5	東援歳時記	8



年 頭 挨 拶

理事長 中村 明彦

あけましておめでとうございます。

令和元年12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルスにより一昨年そして昨年と世界及び日本の経済活動、日常生活が大きく変化しました。飲食を伴う対面での会議などが自粛を余儀なくされ、在宅でのリモートワークなどが行われました。また、都市部では美術館、博物館などの文化施設の休館、デパートや商店街の休業などで街はゴースタウンの様相を呈していました。

そうした中でも我が法人は利用者の方々に一抔の不安をも与えない様にと職員一丸となってこ

の難局に立ち向かい、令和四年の新春を迎えることができました。

現在国内における新型コロナウイルスによる感染は変異株の発生により、感染者が増加していることから、まだまだ安全な状況ではありません。今後も法人役員、職員が情報を共有し、一致協力して感染予防に努めるとともに、利用者の皆様方が喜んで満足して頂ける支援に取り組んで参りたいと存じます。よろしく願い申し上げます。

本年全ての方々にとりまして平穏な日々であります様にと祈念しつつ年頭のご挨拶と致します。

NEWS 1

障害者グループホーム「まある」今春オープン!

「親亡き後」も地域で暮らし続けられる障害者グループホームが、今春台東区に開設されます。

障害者のご家族が建設され、その運営を東京援護協会が担うことになりました。当法人では初めてのグループホーム運営となります。施設名称の「まある」はポルトガル語で「海」を意味し、建設者のお嬢さんの名前に由来しています。

台東区は、東京都内の障害者グループホーム発祥の地で、「親育て・子育て・地域育て」の取り組みが代々続けられています。

「地域で自立したい!させたい!」という熱い思いに応えることができるよう、アットホームで温かなグループホーム作りを目指してまいります。

- 住所：台東区日本堤1丁目8-4
- 開所日：令和4年5月1日(予定)
- 事業種別：共同生活援助事業
(介護サービス包括型)
- 対象者：重度身体障害者の方
身体障害がある方
医療的ケアの必要がない方
- 定員：女性6名

NEWS 2

カフェ「COHANA」営業中

コハナは地域の憩いの場として親しまれているお店です



東が丘福祉工房は目黒区より委託を受け、区民キャンパス内に福祉の店「COHANA(コハナ)」を営業しています。

同店では障がい福祉サービス事業所が生産するオリジナル食品や雑貨類を販売し、コーヒーや季節限定ドリンクなどを店内やテラス席でいただけるカフェです(テイクアウト可)。また、SDGs(国連サミットで採択された持続可能でよりよい世界を目指す国際目標)の取り組みの一環として、紙製のストローや、テイクアウト用カップのフタでプラごみを削減しています。各事業所の利用者が商品納入で来店した時などは地域の方々と交流を楽しみ、障害福祉の情報発信のコミュニティとしての役割と皆様に親しまれるお店でありたいとの思いを込めたサービスを提供してまいります。

皆様もお近くに来られた際は、憩いの場として活用して頂ければと思っています。

- 営業時間：火～土曜日 11:00～15:30
(祝日、年末年始は店休日)
- 所在地：東京都目黒区八雲1-1-10
区民キャンパス内
- 電話：03-3718-1088
- 店名の由来：
ハワイ語の家族を意味する「OHANA」(オハナ)と“共同”“共に”を意味する「CO」を繋げて作った造語です。小さな花々のような素敵な製品を見つけてください。

人材育成委員会

《今回は人材育成委員会の委員長、橋本次長にお話を伺います。》

1. 人材育成委員会の目的やテーマ、今までの取り組みについて教えてください。

人材育成委員会の目的は、法人職員が、「利他の精神」を持った「法人理念の実践者」となる人材の育成を図ることです。テーマは法人キャリアパスに基づいた研修のニーズと研修カリキュラムを検証して、研修内容や講師、開催時期等を改善していくことを掲げています。委員会のメンバーは障害、高齢、更生施設分野の職員からバランスを考慮して構成しています。



研修実績は以下の通りです。

- 階層別研修：新任職員研修・中堅職員研修（初級・上級）・主任研修・係長研修
- 課題別研修：接遇研修・文書専門研修・人事考課者研修
- その他：施設間交流研修・プリセプター会議

研修によっては、外部の研修委託会社と協働し研修の企画、講師の依頼、実施とその調整を図ります。特に、新任研修は法人の理念や歴史について役員からの講話を直接新任職員へ伝える重要な研修の一つで、全て法人と委員会による独自の研修です。

2. コロナ禍の中で、どのように研修に取り組んでいますか。

対面での研修を長年続けてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、約2年前からすべての対面研修が開催できなくなり、委員会は苦境に立たされました。当時はまだリモート会議が普及する前でしたが、法人内の検討・協議を重ね、リモートによる研修の実現にこぎつきました。その後、法人内の各種会議もリモートでの実施が定着してきました。コロナ禍で普及したリモートは、感染防止の他に移動時間の削減や効率的な会議、研修を行えることも認知され、アフターコロナにおいても継続的に使われていくのではないかと考えています。



3. 今後の委員会の課題と取り組みは。

常に課題としていることは、その時々求められる研修ニーズを的確に把握し、そのニーズに合った研修を提供していくことです。その時々とは、制度の変更や世の中の価値観の変化、共生社会の実現といったことから、職員の各階層の課題や学びたい専門的な内容といったことまで幅広い範囲となります。そのため、委員会ではより良い人材を育てるため、常にアンテナを張って、研修内容に反映できるよう検討しています。そして大事なことは、提供した研修が、職員の「気づき」となり、次へのステップ、次なる行動を呼び起こすことができるかどうかです。1つの研修が終わると、またその次の課題が生まれてきます。常に課題解決のために走り続けています。



これからも地域福祉の増進を支える「利他の精神」を持った職員を育成するため、様々な角度から研修を提案していきたいと考えています。期待してください。



旅行体験 ① 関町福祉園「バーチャル旅行体験」

10月8日、22日、29日の3回に分けてVR旅行体験(高尾山旅行)を実施しました。午前はVR体験で京王電鉄若葉台工場や高尾山のケーブルカーやサル園の上映を行ない、午後は記念撮影とお土産交換をしました。久しぶりの行事に皆さん楽しい1日を過ごされていました。

ドキドキ!
わくわく!



待ち時間もドキドキ・わくわくな皆さん。添乗員さんから説明を受け、VRを体験しました。初めてのVR旅行にゴーグルを着け、不思議そうに周りを見渡す方もいました。

楽しみな
お弁当!



お昼ご飯は皆さんお待ちかねの幕の内弁当です。いつもの昼食と違う特別感も一緒に味わいながら美味しく召し上がられていました。

嬉しい!
京王電鉄車掌体験!



午後は記念撮影とお土産交換です。京王電鉄の制服を着て、皆さん思い思いのポーズで写真が撮られていました。お土産を受け取ると笑顔いっぱいになられ、大満足の1日でした。

コロナ禍でも、笑顔いっぱいの旅行



旅行体験 その2 三園福祉園「グループ別で旅行体験」

グループ1 福島県!



楽しい給食!



カレー
焼きそば

福島県旅行のグループは、午前中に各地名所の映像と福島に関するクイズに挑戦し、利用者さんと一緒に職員も楽しみました。給食はご当地グルメの「カレー焼きそば」をいただき、午後には郷土玩具「赤べこ」の色付け体験をしました。どの色を付けようかと考え、個性あふれる赤べこを完成させました。

グループ2 熊本県と新潟県!



おいしい給食!



タレカツどん

熊本県と新潟県旅行のグループは、電車仕様の部屋から熊本県に出発進行! 車窓から熊本の景色を楽しみ、ご当地キャラ「くまモン」のお面を作りました。いろいろな表情のくまモンが出来ました。給食は新潟県の「タレカツ丼」をいただき、午後につるした本物の柿をもぎとる柿狩り体験をしました。

グループ3 大分県!



うれしい給食!



ごま出汁うどん

大分県旅行のグループは、午前中プロジェクター3台の映像を見ながら、由布岳の麓から頂上まで足を動かし登山体験をしました。別府温泉の湯の花で足浴をした後、給食は郷土料理、「ごまだしうどん」をいただきました。午後はプラネタリウムの機材を使い、煌めく100万個の星が天井や壁面に映し出され、音楽が流れる中ゆったりとした時間を過ごしました。

体験を実施することができました!

障がい者清掃事業の取り組みについて

高島平福祉園・蓮根福祉園・前野福祉園



障がい者清掃事業とは、板橋区内の就労継続支援B型事業所が技術習得・作業工賃アップ・就労移行を視野に、環境衛生に特化した方法で清掃に取り組んでいる事業です。

三園福祉園が開所するのをきっかけに、施設内の清掃業務を法人内の板橋区内B型3施設が担えないか検討したことが始まりでした。

三園福祉園にて利用者さんと職員が研修を重ね、利用者さんが取り組みやすい、病院並みの環境感染防止清掃の技術を習得しました。それを基に、三園福祉園・小豆沢福祉園と他法人の特養施設の清掃を受託しています。

厳しいコロナ禍の状況でも、感染症対策を徹底しながら利用者さんは日々頑張っています。

きれいに清掃してくださる利用者さん、職員に質問してみました。

Q1. 清掃作業でのやりがいや楽しさ (利用者さん)

(高島平福祉園) : 清掃作業は面白いです。工賃が上がるので、頑張っています。

(前野福祉園) : 居室清掃で、ベッドの下や部屋の隅々まで埃取りをして、たくさん取れるととても満足します。

(蓮根福祉園) : 職員や仲間と一緒に、笑顔で頑張れるので、楽しいです。



Q2. 清掃作業で気をつけていること (利用者さん)

(高島平福祉園) : 清掃の手順はたくさんあるので、忘れないように気を付けながら取り組んでいます。

(前野福祉園) : 今は手で触るところの消毒が大事なので、しっかりとコンタクトポイントを清掃しています。

(蓮根福祉園) : 分からないことは、職員に聞くようにして、仲間と協力して仕事ができるよう気をつけています。

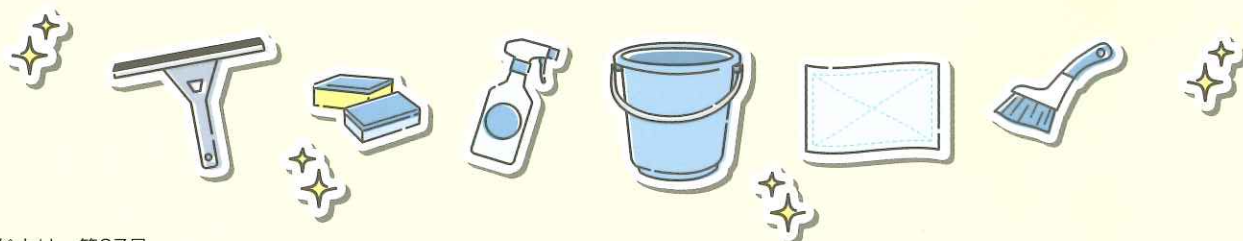


Q3. そのほか施設での取り組み、支援についてなど (職員)

(高島平福祉園) : 感染症対策、各利用者の体調チェック、水分摂取、ネッククーラーの着用など、十分に配慮しながら支援を行っています。コロナ禍で清掃が中止になることが度々あるため、清掃手順を忘れないように園内での練習を適宜行っています。

(前野福祉園) : 仕事の準備も大切なので、自分たちが使う道具は、分かりやすいように整理整頓しています。

(蓮根福祉園) : 環境衛生に特化した障がい者清掃事業の他に、地元企業・寺院境内・区立公園・他福祉施設・シェアハウス・ATMコーナー等週12か所の清掃作業も行っています。



コロナ禍においても、各施設では工夫して地域と交流しています。 ここでは、板橋区内の2施設の取り組みを紹介します。

●高島平福祉園・障がい者福祉センター

- ①広報誌「ひだまり」を通して、行動自粛に対する励まし、応援活動等を行いました。
- ②3時caféにて「ひだまり写真館」も実施しました。職員が撮影した地域の方の癒しとなるような写真をお届けしました。



- ③緊急事態宣言解除後の11月には感染症防止対策を徹底し、ダイルーム内で映画会を実施し、地域の方23名が集まりました。「楽しかった。また来たい。」等の感想がありました。



今後の感染状況の様子を見ながら、地域の方の交流の場として、映画以外のイベントも企画していきたいと考えています。

●いずみの苑

- ①小学生の方とご家族を対象に、月1回限定20食でお弁当を無料で配布しています。施設に掲示したポスターやチラシなどをきっかけにこの活動を知っていただき、申し込んでもらっています。お弁当は取りに来ていただくことが多く「いつも美味しいです」との言葉をいただいています。定期的にアンケートを実施し、サービスの向上に努めています。



- ②毎週金曜日に食品を多く乗せた移動販売車が正面玄関前に来ます。野菜・惣菜・乾物・飲料など「今日は、何があるかしら?」「いつものグラタンある?」近隣にお住まいの方やデイサービス利用者の方、常連さんが品物を選ばれます。皆さん楽しそうに買い物をされています。



- ③蓮根小学校の5年生のみなさんと交流しています。介護の仕事について生徒のみなさんからたくさん質問が寄せられ、入浴や食事の介助の方法、施設の機能、利用者の方々の施設での過ごし方などの質問に職員が回答しました。そのお礼にとお手紙や手作りの贈り物をいただきました。一人でも多くの若い世代の人達が介護の仕事に興味を抱いてもらえたらいいなと思っています。





支援マテリアル紹介

ケアハウス 松が谷 足湯

松が谷の利用者は「お風呂好き」「旅行好き」。
「温泉気分を味わっていただこう!」「リラックスしていただこう!」
「さらにキレイ(美容効果)になっていただこう!!」
そして「何より喜んでいただきたい!!」と職員一同 頑張っています。



「熱すぎないかな、ぬるくないかな」



「(炭酸泉も入っているけど)愛情が入っているのよね!!だからあったかいの!!」

「上手いこと言うわね!!(笑)」

「(寝付きが良くなって)今夜はいい夢が見られるね!」



東援歳時記

東が丘福祉工房

工房がパラリンピック採火の舞台に楽しい時間をすごしました!

2021年はどのような年月でしたでしょうか。東京2020オリンピック・パラリンピックに感動し、記憶に留めている方も多いことでしょう。昨年8月、目黒区はリモートでパラリンピック採火式を実施し、東が丘福祉工房が採火会場の一つになりました。利用者様は採火式に臨むため、シンボルマーク「スリーアギトス」をモチーフにしたTシャツを染色して作り、当日はそのTシャツを着用して採火式を盛り上げました。さて、採火式当日の利用者様の生き生きしたようすが、それはこの誌面では伝えきれません。動画サイトYouTubeにて[東京2020パラリンピック聖火リレー目黒区パラリンピック採火式]で検索して採火式当日の雄姿をご覧いただければ幸いです。



[採火式YouTube]
こちらからアクセス



編集後記

正月明けに東京では珍しく雪が積もりました。新型コロナウイルスの感染者数は増え続けています。現在リモートで開催している広報委員会も、顔を合わせて開催できる日を心待ちにしています。

スペイン風邪の終息は足かけ3年かかっているそうです。今年も感染防止対策をしっかり行い、コロナに負けず、法人の「いま」と「これから」をお届けできるよう努めてまいります。



東援だより 第37号

発行日 令和4年2月18日

発行者 中村 明彦

社会福祉法人 東京援護協会

東京都台東区東上野3-18-11